



2022年10月31日

各 位

会社名 株式会社ラックランド
代表者名 代表取締役社長 望月圭一郎
(コード番号: 9612 東証プライム)
問合せ先 取締役管理本部長 鈴木健太郎
(TEL 03-3377-9331 (代表))

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2022年2月14日の2021年12月期の本決算発表時に開示した2022年12月期(2022年1月1日～2022年12月31日)の通期連結業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

1. 当期の連結業績予想数値の修正(2022年1月1日～2022年12月31日)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 42,000	百万円 1,200	百万円 1,250	百万円 700	円 銭 72.00
今回修正予想(B)	38,000	400	600	350	34.61
増減額(B-A)	△4,000	△800	△650	△350	-----
増減率(%)	△9.5	△66.7	△52.0	△50.0	-----
(参考)前期連結実績 (2021年12月期)	35,886	△350	△155	△120	△12.49

2. 修正の理由

2022年12月期第3四半期以降の日本経済は、7月から8月にピークであった新型コロナウイルス第7波において日本政府は行動制限を設けず、さらには10月には全国旅行支援制度が開始され、訪日外国人の入国制限も大幅に緩和されております。また、当社の営業状況においては、2022年12月期第4四半期以降に竣工予定のホテル、商業施設、大型小売店等、大

型物件の引き合い状況が非常に強く、第2四半期以降、その状況が継続していることを考えると、日本経済は再度動き始め、今後は劇的に動いてくるものと見ております。

そのため、2022年7月29日付で公表した「2022年12月期 第2四半期（累計）連結業績予想と実績との差異に関するお知らせ」のとおり、2022年12月期 第2四半期累計期間においては、期初時点での業績予想（中間）について未達であったものの、上記の引き合いに加え、年末に向けた短期的な出店需要を見込み、同日付で公表した「2022年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」において、期初の業績予想（通期）については達成可能と見ておりました。

ただし、当社の将来的な引き合いは、現在も依然として強い状況が継続しているものの、第3四半期以降、竣工案件や、着工済及び着工予定案件の着工時期の予定や工事進捗状況について、

- ① 目先の短期的な店舗設備に対する設備投資については、当社顧客の店舗売上は増加し、投資意欲のマインドは高まりつつあるものの、慎重な部分も見られること
- ② 「収益認識に関する会計基準」の適用により、工事の進捗度に応じて収益を計上していることから、資材や部品の供給不足や納期遅延により多数の案件で工事の進捗が遅れが見られること
- ③ 急激な円安による資材や部品の高騰により、投資額に大きな影響を受ける大型案件について、投資額の見直しや仕様変更等に時間を要したことから着工時期が遅れたこと
が見られ始め、売上高（通期）は、期初の業績予想を下回る見込みとなりました。

また、通期における営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の各段階利益については、

- ① 今回の業績予想修正により、売上高（通期）が減少すること
- ② 現在の当社社員に対して、これからのインフレ時代において安心して働ける環境作りとして、昇給や賃金体系の見直しを図ったことと、今後数年間の案件引き合い数の力強さ、そして、建設業界の課題である就業者数の減少と高齢化による人材不足と2024年4月から適用される「働き方改革関連法」の適用による勤務時間の減少を見据え、新卒に加え即戦力となる人材の採用による人材確保を推進したことによる人件費の増加
を要因として、期初の業績予想を下回る見込みとなりました。

（業績予想に関する注意事項）

上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものです。実際の業績は、様々な要因により、この予想とは大きく異なる場合があります。ご承知おきください。

以 上